

編集方針・目次・トヨタ自動車の概要	企業理念・サステナビリティの考え方	社会への取り組み	環境への取り組み					ガバナンス	CSRの実績データ集
トヨタ環境 チャレンジ2050	「2030マイルストーン」 の設定	第6次「トヨタ環境取組プラン」 2017年度レビュー	Challenge1	Challenge2	Challenge3	Challenge4	Challenge5	Challenge6	環境マネジメント 環境データ

## 第6次「トヨタ環境取組プラン」2017年度レビュー サマリー

分野 取り組みの総括

**低炭素**  
(気候変動・CO<sub>2</sub>)



**チャレンジ1** グローバル新車平均CO<sub>2</sub>は、環境性能の向上とラインナップの拡充により、2010年比13.7%低減しました。次世代車では、ハイブリッド車(HV)の環境性能向上とラインナップ拡充により2020年販売目標(150万台/年)を前倒しで達成しました。また「プリウスPHV」は年間5万台を販売し、燃料電池(FC)バス「SORA」の販売を開始しました。電気自動車(EV)では、マツダ株式会社、株式会社デンソーと新会社を設立し、具体的な協業に着手しました。



**チャレンジ2** 製品開発分野では、国内7車種についてEco-VAS<sup>\*1</sup>によるライフサイクル評価を実施し、新型「カムリ」は従来モデル比でCO<sub>2</sub>排出量を19%低減しました。物流分野では、輸送効率の改善を中心としたCO<sub>2</sub>低減活動を推進しました。

<sup>\*1</sup> Eco-VAS (Eco-Vehicle Assessment System) : 車両の全開発プロセスを通じて、自動車の生産、使用、廃棄に至るLCAの考え方を踏まえた総合的な環境評価を実施することで、車両開発責任者によるマネジメント強化が目的



**チャレンジ3** 生産におけるCO<sub>2</sub>排出量を低減するため、日常改善を徹底的に積み上げました。また、好事例を横展<sup>\*2</sup>することで削減効果を世界に広げるとともに、さらに飛躍的な削減を目指し、国内外で革新技術の開発も積極的に進めました。再生可能エネルギーの導入も本格化しており、導入拠点および発電量は順調に増加しました。

<sup>\*2</sup> 横展 : 改善事例やノウハウ、違反などの情報をグループ内で共有化すること

**循環**  
(資源・水)



**チャレンジ4** 水使用量を抑制するため、国内外で削減技術の導入と日頃の節水活動などの取り組みを積極的に推進しました。水量に関するチャレンジ優先工場においては、その地域の水事情などを分析し、地域とも議論を重ね、インパクト評価をアップデートしました。また、水質についてもトヨタの排水が地域に与える影響を考慮し、チャレンジを優先して推進すべき拠点を選定しました。



**チャレンジ5** 生産分野では汚泥の減容化など日常の廃棄物低減対策に継続して取り組み、物流分野では簡素化・リターナブル化<sup>\*3</sup>により、廃棄物の発生および梱包・包装材使用量を着実に抑制しました。資源循環分野では、廃車処理に関する「適正処理マニュアル」を海外へ展開するとともに、ベトナムでは適正処理法規への対応を完了、タイでは、東南アジア初の適正処理モデル施設の立ち上げを完了しました。また回収電池の全量リユース・リサイクルを継続するとともに、今後の電動車拡大に向けて取り組みのグローバル化に着手しました。

<sup>\*3</sup> リターナブル化 : 物流に使用した梱包資材を、出荷元に戻し、再利用すること

**自然共生**



**チャレンジ6** 「Toyota Greenwave Project」では、これまでのサステナブル・プラント活動「工場の森づくり」から「自然と共生する工場」へ発展させ、国内モデル工場で活動を開始しました。「オールトヨタ自然共生ワーキンググループ」では、個社活動数の増加や従業員の認知度向上、グループをつなぐ活動が拡大しました。「Toyota Today for Tomorrow Project」では、IUCN<sup>\*4</sup>の絶滅危惧種データ整備や、WWF<sup>\*5</sup>の東南アジアでの地道な生態系保全活動や天然ゴム生産の持続可能性確保に向けた取り組みなどへの支援を継続し、一定の進展がありました。「Toyota ESD Project」では、未来を担う子どもたちを中心とした環境教育を継続し、「トヨタの森」が累計来場者数17万人、「トヨタ白川郷自然学校」が20万9千人を達成しました。

<sup>\*4</sup> IUCN (International Union for Conservation of Nature) : 国際自然保護連合。1948年に世界的な協力関係のもと設立された、国家、政府機関、非政府機関などで構成される国際的な自然保護ネットワーク

<sup>\*5</sup> WWF (World Wide Fund for Nature) : 世界自然保護基金

**マネジメント**

**環境マネジメント** 環境異常・苦情は、軽微な異常が発生しました。そのため、未然防止の対策とその横展を徹底しました。環境取り組みに多大な貢献のあったサプライヤーへの表彰を開始し、販売・サービス分野では各地域で環境ガイドラインの策定と代理店・販売店への展開を推進しました。情報開示の改善を進め、「環境報告書2017」が第21回環境コミュニケーション大賞「環境報告優秀賞」を受賞しました。

編集方針・目次・トヨタ自動車の概要	企業理念・サステナビリティの考え方	社会への取り組み	環境への取り組み	ガバナンス	CSRの実績データ集					
トヨタ環境 チャレンジ2050	「2030マイルストーン」 の設定	第6次「トヨタ環境取組プラン」 2017年度レビュー	Challenge1	Challenge2	Challenge3	Challenge4	Challenge5	Challenge6	環境マネジメント	環境データ

第6次「トヨタ環境取組プラン」2017年度レビュー詳細

- ✓✓：順調に進捗
- ✓：課題はあるものの、2020年度には目標達成見込み
- ：2020年度に目標未達見込み

取り組み項目	具体的な実施項目・目標など	2017年度の取り組み結果	評価	頁																														
<b>①新車CO<sub>2</sub>ゼロチャレンジ</b>																																		
低炭素 （気候変動・CO <sub>2</sub> ）	1. トップクラスの燃費性能を目指す開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年グローバル新車平均CO<sub>2</sub>低減率は、2010年比22%以上を目指す。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>—TNGA取り組みによる高性能なパワートレインを開発し、順次導入</li> <li>—HVの一層の性能向上と導入拡大</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル新車平均CO<sub>2</sub>低減率（日本・米国・欧州・中国）の2017年度実績は、2010年比13.7%低減</li> <li>TNGA取り組みによるエンジン・トランスミッションの低CO<sub>2</sub>化開発と展開、HVのさらなる環境性能の向上とラインナップ拡充により、2020年目標達成に向けて取り組み推進</li> </ul>	✓✓	90																													
	2. 電気エネルギーを利用した次世代車の開発推進とそれぞれの特徴を活かした普及推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●HV：一層の高性能化およびラインアップの拡充などによるHVの一層の普及拡大を図り、2020年までに年間HV販売台数150万台、累計販売1,500万台を目指す</li> <li>●PHV：燃料多様化に向けた電気利用車の柱として、さらに高性能な車両を開発し、普及拡大を図る</li> <li>●EV：近距離用途として低炭素交通システムと組み合わせ技術開発を推進する</li> <li>●FCV：将来有力なエネルギーである水素を有効に利用できるよう、さらなる低コスト化、小型化、耐久性の向上など、商品力強化に向けた取り組みを進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2030年に電動車の販売550万台以上（EV・FCVは100万台以上）を目指し、開発を加速させる（2025年ごろまでに、全車種を電動車専用もしくは電動グレード設定車に）</li> <li>●HV：さらなる環境性能の向上とラインナップ拡充により、2020年販売目標（150万台/年）を前倒しで達成（2017年度）、国内では新たにHV専用車「JPN TAXI」を投入</li> <li>●トヨタの販売台数に占めるHVの割合は、国内40%、グローバル16%</li> <li>●PHV：大幅に商品力を向上させ投入した新型「プリウスPHV」は、2017年度に約5万台を販売し普及拡大に向けて着実に前進</li> <li>●FCV：量販型FCバス「SORA」を発売</li> <li>●2020年までに東京を中心に100万台以上の普及を目指す</li> <li>●EV：マツダ株式会社、株式会社デンソーとEV共同開発拠点として新会社を設立し、具体的な協業に着手</li> </ul>	✓✓	89																													
<b>②ライフサイクルCO<sub>2</sub>ゼロチャレンジ</b>																																		
3. 製品開発における環境マネジメントの推進（Eco-VAS）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●開発段階での車両環境アセスメントシステム（Eco-VAS）による環境目標管理の着実な推進</li> <li>—モデルチェンジ車、新型車共に前モデルと比較してライフサイクル環境負荷の低減を推進</li> <li>—評価結果をウェブサイト、カタログなどで、お客様への適切な情報開示を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国内においては、モデルチェンジ車、新型車7車種についてEco-VASによるライフサイクルアセスメントを実施</li> <li>—全対象車種について、比較車両に対してライフサイクルでのCO<sub>2</sub>排出量を低減（新型「カムリ」においては、2011年モデルに対してCO<sub>2</sub>排出量を19%削減）</li> </ul>	✓✓	93																														
4. 触媒技術によるCO <sub>2</sub> 吸収・新資源創出の実用化研究（人工光合成など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●CO<sub>2</sub>・水・太陽光エネルギーからの人工光合成技術開発の推進</li> <li>—2020年に世界トップクラスの光合成効率による、CO<sub>2</sub>吸収・1次原料（素材・燃料など）創出の基礎実証を完了する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●資源豊富な鉄さび（鉄酸化物）を利用した光吸収体や触媒で、CO<sub>2</sub>・水・太陽光エネルギーのみからのギ酸合成反応を実現</li> </ul>	✓✓	—																														
5. 物流活動における輸送効率の追求とCO <sub>2</sub> 排出量の低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>●輸送効率の一層の改善によるCO<sub>2</sub>低減活動の推進（徹底した総走行距離の低減、モーダルシフトのさらなる推進）</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>項目</th> <th>基準年</th> <th>目標（2020年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">国内</td> <td>排出量</td> <td>1990年度</td> <td>25%減</td> </tr> <tr> <td>輸送量当たり排出量</td> <td>2006年度</td> <td>14%減（毎年1%減）</td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td colspan="3">実績を把握</td> </tr> </tbody> </table>	地域	項目	基準年	目標（2020年度）	国内	排出量	1990年度	25%減	輸送量当たり排出量	2006年度	14%減（毎年1%減）	海外	実績を把握			<ul style="list-style-type: none"> <li>●改善活動推進により目標達成</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>項目</th> <th>基準年</th> <th>2017年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">国内</td> <td>排出量</td> <td>1990年度</td> <td>35%減</td> </tr> <tr> <td>輸送量当たり排出量</td> <td>2006年度</td> <td>20%減</td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td colspan="3">実績を把握</td> </tr> </tbody> </table>	地域	項目	基準年	2017年度実績	国内	排出量	1990年度	35%減	輸送量当たり排出量	2006年度	20%減	海外	実績を把握			✓✓	94
地域	項目	基準年	目標（2020年度）																															
国内	排出量	1990年度	25%減																															
	輸送量当たり排出量	2006年度	14%減（毎年1%減）																															
海外	実績を把握																																	
地域	項目	基準年	2017年度実績																															
国内	排出量	1990年度	35%減																															
	輸送量当たり排出量	2006年度	20%減																															
海外	実績を把握																																	
6. 地域グリッドエネルギーマネジメント技術の展開による地域社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マイクログリッド（F-grid）・地域最適エネルギーマネジメント技術の確立と国内外展開の推進</li> <li>—東北大衡村プロジェクト・豊田市元町工場プロジェクトの実証確認</li> <li>—国内他工場、アジアなどへの国内外への展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各プロジェクトとも予定どおり推進</li> <li>—マイクログリッド（F-grid）：省エネ性 導入前比24%減、環境性 導入前比31%減</li> <li>—豊田市元町工場：NEDO実証による化学蓄熱技術の実用化実施中</li> <li>—国内他工場、アジア：情報収集（導入環境、法規制など）を継続実施</li> </ul>	✓✓	—																														
7. 道路交通セクターにおける統合的なCO <sub>2</sub> 低減取り組みの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●IT・ITS技術などによる、スマートモビリティ社会への貢献</li> <li>—超小型EVを使用した次世代交通システム「Ha:mo」の日仏での実証結果を踏まえ、東京2020オリンピック・パラリンピックも視野に入れた各地域への展開と事業モデルの構築を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●豊田市、沖繩は地域運営事業者による事業化に移行</li> <li>—実証実験段階の東京・岡山については持続的な事業運営モデルの構築に向け、収益改善やシステム改良・機能開発を実施</li> </ul>	✓✓	—																														

編集方針・目次・トヨタ自動車の概要	企業理念・サステナビリティの考え方	社会への取り組み	環境への取り組み	ガバナンス	CSRの実績データ集					
トヨタ環境 チャレンジ2050	「2030マイルストーン」 の設定	第6次「トヨタ環境取組プラン」 2017年度レビュー	Challenge1	Challenge2	Challenge3	Challenge4	Challenge5	Challenge6	環境マネジメント	環境データ

取り組み項目	具体的な実施項目・目標など	2017年度の取り組み結果	評価	頁																																						
低炭素 気候変動（CO <sub>2</sub> ）	②ライフサイクルCO <sub>2</sub> ゼロチャレンジ																																									
	7. 道路交通セクターにおける統合的なCO <sub>2</sub> 低減取り組みの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>低炭素モビリティ社会構築に向けた統合的交差流通策プロジェクトへの積極的参画 —WBCSD・SMP 2.0サートン・モデル確立とバンコク展開ロードマップ策定</li> <li>グローバルでのエコドライブ普及推進 —グローバルで、お客様、従業員へのエコドライブ普及を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2017年2月、タイ国家交通委員会（委員長：ソムキット副首相）で、サートンモデルのバンコク展開ロードマップが承認され、同4月の閣僚会議（プラユット首相）にて結果報告</li> <li>以下のとおり推進： —販売店を通じたエコドライブアドバイス、レンタリース店を通じたエコドライブサポートなど、お客様への啓発活動を継続して推進 —動物を用いたメッセージ性のあるポスター掲示、パンフレット配布、エコドライブをテーマとした外部講師による社内講演会など、エコドライブを従業員に多面的に啓発</li> </ul>	✓✓	—																																					
	③工場CO <sub>2</sub> ゼロチャレンジ																																									
8. 生産活動におけるCO <sub>2</sub> 排出量の低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>低CO<sub>2</sub>生産技術の開発・導入と日常改善活動によるCO<sub>2</sub>低減活動の推進 —生産性向上の追求、オフィスなども含めた活動の展開</li> <li>各国、各地域の特性を考慮したグリーンエネルギーの活用 —2020年に向けた段階的な導入推進</li> <li>エネルギー起源以外の温室効果ガスの管理</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>項目</th> <th>基準年</th> <th>目標（2020年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">グローバル*1</td> <td>台当たり排出量</td> <td>2001年度</td> <td>39%減</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">TMC</td> <td>台当たり排出量</td> <td>2001年度</td> <td>48%減</td> </tr> <tr> <td>排出量</td> <td>1990年</td> <td>28%減</td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td colspan="3">地域No.1の低減活動推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 TMC+国内外連結子会社（製造系）</p>	地域	項目	基準年	目標（2020年度）	グローバル*1	台当たり排出量	2001年度	39%減	TMC	台当たり排出量	2001年度	48%減	排出量	1990年	28%減	海外	地域No.1の低減活動推進			<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年目標達成に向けた開発推進、および開発済み技術の着実な導入を実施</li> <li>工程別ジョブ軸活動による、日常改善活動を加速・再生可能エネルギーの導入促進</li> <li>再生可能エネルギーの導入推進</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>項目</th> <th>基準年</th> <th>2017年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">グローバル</td> <td>台当たり排出量</td> <td>2001年度</td> <td>35%減</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">TMC</td> <td>台当たり排出量</td> <td>2001年度</td> <td>46%減</td> </tr> <tr> <td>排出量</td> <td>1990年</td> <td>45%減</td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td colspan="3">地域に適した低減シナリオ実践</td> </tr> </tbody> </table>	地域	項目	基準年	2017年度実績	グローバル	台当たり排出量	2001年度	35%減	TMC	台当たり排出量	2001年度	46%減	排出量	1990年	45%減	海外	地域に適した低減シナリオ実践			✓✓	97
地域	項目	基準年	目標（2020年度）																																							
グローバル*1	台当たり排出量	2001年度	39%減																																							
	TMC	台当たり排出量	2001年度	48%減																																						
		排出量	1990年	28%減																																						
海外	地域No.1の低減活動推進																																									
地域	項目	基準年	2017年度実績																																							
グローバル	台当たり排出量	2001年度	35%減																																							
	TMC	台当たり排出量	2001年度	46%減																																						
		排出量	1990年	45%減																																						
海外	地域に適した低減シナリオ実践																																									
循環 資源 水	④水環境インパクト最小化チャレンジ																																									
	9. 生産活動における水使用量の低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>各国、各地域の水環境事情を考慮し、継続的な水使用量低減活動を推進 —新工場、ライン改装計画と連動した画期的な取り組み —日常改善など各種取り組みによる水使用量低減</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>項目</th> <th>基準年</th> <th>目標（2020年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>TMC（車両工場）</td> <td>台当たり使用量</td> <td>2001年度</td> <td>12%減</td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td colspan="3">地域No.1の低減活動推進</td> </tr> </tbody> </table>	地域	項目	基準年	目標（2020年度）	TMC（車両工場）	台当たり使用量	2001年度	12%減	海外	地域No.1の低減活動推進			<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外各社において、水使用量低減技術の導入および日頃の節水活動を推進</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>項目</th> <th>基準年</th> <th>2017年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>TMC（車両工場）</td> <td>台当たり使用量</td> <td>2001年度</td> <td>26%減</td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td colspan="3">地域水環境事情に即した活動推進</td> </tr> </tbody> </table>	地域	項目	基準年	2017年度実績	TMC（車両工場）	台当たり使用量	2001年度	26%減	海外	地域水環境事情に即した活動推進			✓✓	104													
	地域	項目	基準年	目標（2020年度）																																						
TMC（車両工場）	台当たり使用量	2001年度	12%減																																							
海外	地域No.1の低減活動推進																																									
地域	項目	基準年	2017年度実績																																							
TMC（車両工場）	台当たり使用量	2001年度	26%減																																							
海外	地域水環境事情に即した活動推進																																									
⑤循環型社会・システム構築チャレンジ																																										
10. 再生可能資源・リサイクル材活用による枯渇天然資源の使用量低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>石油由来の樹脂の使用量低減 —品質・性能要件を満たすリサイクル樹脂・エンプラスチックの技術開発 —使用済み樹脂の回収システム構築</li> <li>希少資源／リサイクル材の再利用推進 —CFRPリサイクル技術の開発 —希土類の使用量削減技術とリサイクル技術の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>石油由来樹脂 —解体業者と連携した廃車由来樹脂の回収トライを継続して実施し、効率的な異物除去検討、車両に活用できる再生材化への活動を実施 —トヨタ販売店で修理交換された使用済みバンパーの回収・リサイクルを継続</li> <li>希少資源／リサイクル材の再利用推進 —廃CFRPのマテリアルリサイクルに向けた技術開発の取り組みを継続 —ハイブリッド系部品に使用されるレアアースの使用量削減に継続して取り組み</li> </ul>	✓✓	107																																						
11. 資源回収しやすい「易解体性トップレベル」の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>易解体性トップレベルの維持・向上 —次世代車（EV、FCV）、スマートモビリティをはじめとした各モデルへの確実な易解体設計の織り込み —新技術・新材料部品の易解体構造の開発、織り込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「JPN TAXI」「プリウスPHV」「カムリ」、レクサス「LS」などの新規開発車両に易解体設計を継続して織り込み実施</li> </ul>	✓✓	109																																						
12. 日本で培った廃車適正処理による国際貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>各国、各地域の実情に合わせた「廃車適正処理技術」の海外展開 —各国リサイクル法規に対応した確実な廃車適正処理と、今後法規導入が想定される国・地域においては、トヨタ自動車で作成したガイドラインに基づき各国・各地域での取り組みを強化 —解体リサイクルモデル工場（100拠点）に向けた事業展開（2020年時点で7拠点）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下のとおり推進： —十分な解体設備のない国、地域を想定し、廃車処理に関する「適正処理マニュアル（基礎編）」を作成し、海外へ展開 —既存施設を活用し、廃車の適正処理法規への対応完了（ベトナム） —東南アジア初の廃車の適正処理モデル施設設置（タイ）</li> </ul>	✓✓	110																																						

編纂方針・目次・トヨタ自動車の概要	企業理念・サステナビリティの考え方	社会への取り組み	環境への取り組み	ガバナンス	CSRの実績データ集					
トヨタ環境 チャレンジ2050	「2030マイルストーン」 の設定	第6次「トヨタ環境取組プラン」 2017年度レビュー	Challenge1	Challenge2	Challenge3	Challenge4	Challenge5	Challenge6	環境マネジメント	環境データ

取り組み項目	具体的な実施項目・目標など	2017年度の取り組み結果	評価	頁																																																									
⑤循環型社会・システム構築チャレンジ																																																													
13. 廃車資源に対する オリジナル リサイクルシステムの 海外展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>トヨタ独自の「リサイクル技術」の高度化と海外支援                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ニッケル水素電池のリビルト・リサイクルの技術向上(コスト低減)と海外支援</li> <li>リチウムイオン電池のリビルト・リサイクル技術確立と海外支援</li> <li>国内ワイヤーハーネスリサイクルの実用化(規模拡大)</li> <li>国内磁石リサイクルの実用化(規模拡大)</li> <li>HVユニットを活用した創電・蓄電技術開発</li> <li>海外主要地域でのバンパー回収・リサイクル技術の検討とめど付け</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下のとおり推進:                             <ul style="list-style-type: none"> <li>1997年度以降、累計9万8,700台の電池を回収、全量をリユース・リサイクル実施中</li> <li>今後のグローバルでの電動車拡大に備え、電池リサイクルのグローバル化に向けた取り組みに着手</li> <li>一定量を含む電池のリビルト(検査・再組み立て)・リユース活動を継続して推進中</li> <li>市中回収した磁石からレアアースを抽出、磁石原料などに再利用するリサイクルを2012年度から継続して取り組み、累計35トンの磁石を回収・リサイクル</li> <li>電力会社と連携した大規模な蓄電池システムの検討を本格化</li> </ul> </li> </ul>	✓✓	111																																																									
	14. 生産活動における 排出物の低減と 資源の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>排出物低減生産技術の開発・導入と日常改善活動による排出物低減活動の推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>歩留まり向上などの発生源対策による排出物低減と資源の有効利用促進</li> <li>有価物・廃棄物の発生量低減など、資源ロス低減活動の推進</li> </ul> </li> <li>金属屑など発生量低減活動およびオールトヨタ内有効活用の推進</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>地域</th> <th>項目</th> <th>基準年</th> <th>目標(2020年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">排出物</td> <td rowspan="2">有価物</td> <td>国内<sup>※2</sup></td> <td>発生量</td> <td>金属屑など発生量低減活動およびオールトヨタ内有効活用の推進</td> </tr> <tr> <td>国内</td> <td>台当たり発生量</td> <td>2001年度</td> <td>35%減</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">廃棄物<sup>※1</sup></td> <td>TMC</td> <td>台当たり発生量</td> <td>2001年度</td> <td>63%減</td> </tr> <tr> <td colspan="2">埋立廃棄物ゼロ<sup>※3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>海外</td> <td colspan="3">地域No.1の低減活動推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 逆有償リサイクル、焼却廃棄物、埋立廃棄物 ※2 TMC+国内外連結子会社(製造系) ※3 ゼロ定義=直接埋め立てられる廃棄物を1995年度比1%未満</p>	対象		地域	項目	基準年	目標(2020年度)	排出物	有価物	国内 <sup>※2</sup>	発生量	金属屑など発生量低減活動およびオールトヨタ内有効活用の推進	国内	台当たり発生量	2001年度	35%減	廃棄物 <sup>※1</sup>	TMC	台当たり発生量	2001年度	63%減	埋立廃棄物ゼロ <sup>※3</sup>					海外	地域No.1の低減活動推進			<ul style="list-style-type: none"> <li>リサイクル率向上による鋳物集じんダストの低減、および汚泥の減容化を継続実施</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>地域</th> <th>項目</th> <th>基準年</th> <th>2017年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">排出物</td> <td rowspan="2">有価物</td> <td>国内</td> <td>発生量</td> <td>歩留まり向上推進および端材の確実な回収</td> </tr> <tr> <td>国内</td> <td>台当たり発生量</td> <td>2001年度</td> <td>31%減</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">廃棄物</td> <td>TMC</td> <td>台当たり発生量</td> <td>2001年度</td> <td>62%減</td> </tr> <tr> <td colspan="2">埋立廃棄物ゼロ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>海外</td> <td colspan="3">再利用化など活動推進</td> </tr> </tbody> </table>	対象	地域	項目	基準年	2017年度実績	排出物	有価物	国内	発生量	歩留まり向上推進および端材の確実な回収	国内	台当たり発生量	2001年度	31%減	廃棄物	TMC	台当たり発生量	2001年度	62%減	埋立廃棄物ゼロ					海外	再利用化など活動推進			✓✓
	対象	地域	項目		基準年	目標(2020年度)																																																							
排出物	有価物	国内 <sup>※2</sup>	発生量	金属屑など発生量低減活動およびオールトヨタ内有効活用の推進																																																									
		国内	台当たり発生量	2001年度	35%減																																																								
	廃棄物 <sup>※1</sup>	TMC	台当たり発生量	2001年度	63%減																																																								
		埋立廃棄物ゼロ <sup>※3</sup>																																																											
	海外	地域No.1の低減活動推進																																																											
対象	地域	項目	基準年	2017年度実績																																																									
排出物	有価物	国内	発生量	歩留まり向上推進および端材の確実な回収																																																									
		国内	台当たり発生量	2001年度	31%減																																																								
	廃棄物	TMC	台当たり発生量	2001年度	62%減																																																								
		埋立廃棄物ゼロ																																																											
	海外	再利用化など活動推進																																																											
15. 物流活動における 梱包・包装資材の低減と 資源の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>リターナブル化、包装材の軽量化を中心に改善を推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(国内) 従来並みの改善を継続(2006年度比14%減)</li> <li>(海外) 事例を把握</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>包装仕様の簡素化、リターナブル化を推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(国内) 従来並みの改善を継続(2006年度比35%減)</li> <li>(海外) 改善事例を把握</li> </ul> </li> </ul>	✓✓	112																																																									
⑥人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ																																																													
16. 各事業所・各地域の活動を "地域をつなぐ" 自然保全活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>オールトヨタ・グローバル事業体で進めてきたさまざまな自然保全の活動を地域とつなぐ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>~Toyota Green Wave Project~</li> <li>これまでのサステナブル・プラント活動をやりきると同時に、グループ・オールトヨタのさまざまな活動を、海外・関連会社や地域へ広げる、ステークホルダーとの連携で活動の輪を広げる</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「オールトヨタ自然共生ワーキンググループ(WG)」をグループ会社他(23社)で活動継続(活動をつなぐ)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>オールトヨタ個社活動を合計217件(前年比184%)実施し、自然共生活動を拡大</li> <li>統一イベントを年2回実施、グループ連携強化(2017年5月:植樹祭、同年10月:河川竹林整備)(認知度向上)</li> <li>グリーンウェーブプロジェクト活動冊子第2号を、2017年6月にWG各社で従業員へ配付・ホームページへ展開実施、社内の生物多様性と各社活動認知が着実に向上</li> <li>さらなる認知向上を目指し、社外向けホームページを2018年6月立ち上げ実施</li> </ul> </li> <li>「自然と共生する工場」の活動開始                             <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでのサステナブル・プラント活動に、新研究開発施設プロジェクトでの生物多様性保全で得られた知見を生かし、自然共生活動のレベル向上を図る</li> <li>国内モデル工場(堤工場)より活動開始し、新ビオトープ整備中、従業員による指標種調査にトライ</li> <li>国内外工場に国内モデル工場の活動を展開中</li> </ul> </li> </ul>	✓✓	113																																																									
	17. 自然・生物多様性保全を "世界とつなぐ" 環境活動への助成の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境活動助成を通じて、環境保全・生物多様性保全の活動を世界とつなぐ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>~Toyota Today for Tomorrow Project~</li> <li>社会貢献活動の重点である環境分野において、環境課題の解決に寄与するプロジェクトの助成を強化。グローバル各団体・ステークホルダーとの協働による新しい価値を提供し、世界に活動の輪を広げる</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際機関・NGOとのパートナーシップを以下のとおり推進し、政府関係者、専門家、NGOなどを中心にポジティブな評価を獲得                             <ul style="list-style-type: none"> <li>IUCNと以下の二つのイベントを共催                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>アジアでの生物多様性認知向上を目的としたイベント(5月 バンコク)</li> <li>レッドリストプロジェクトの進捗報告記者会見(12月 東京)</li> </ul> </li> <li>レッドリストプロジェクトへの支援の一環として、パードライフ・インターナショナル、コンサベーション・インターナショナルに車両を寄贈、贈呈式を3月 ベトナム、インドネシアで実施</li> <li>WWF「生きているアジアの森プロジェクト」の一環で、天然ゴムセミナー開催(7月 東京)                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>また、SNSを用いて「生きているアジアの森」に暮らす動物や植物、活動の様子などを発信</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>上記メジャーNGOとの連携に加え、中小規模NGO・NPOへの助成として、「トヨタ環境活動助成プログラム」を継続実施</li> </ul>		✓✓	116																																																							



編集方針・目次・トヨタ自動車の概要	企業理念・サステナビリティの考え方	社会への取り組み	環境への取り組み	ガバナンス	CSRの実績データ集					
トヨタ環境 チャレンジ2050	「2030マイルストーン」 の設定	第6次「トヨタ環境取組プラン」 2017年度レビュー	Challenge1	Challenge2	Challenge3	Challenge4	Challenge5	Challenge6	環境マネジメント	環境データ

取り組み項目	具体的な実施項目・目標など	2017年度の取り組み結果	評価	頁	
◎人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ					
自然共生	18. 環境活動を “未来へつなぐ” 環境教育貢献の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各地域の事業所やフィールドを活用した環境教育を強化し、環境保全活動を未来へつなぐ～Toyota ESD Project～</li> <li>―工場の森、事業所の緑・ビオトープなどを活用した地域住民・子ども教育をグローバルに拡大していく</li> <li>―社有地フィールド(白川郷、トヨタの森、三重宮川山林など)の特色を生かした教育プログラムの開発を進め、未来へつなぐ人材育成を進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●以下のとおり推進: 《従業員教育》</li> <li>―No.25に同じ</li> <li>《トヨタの森》</li> <li>―近隣小学校を対象とした自然ふれあい体験学習を実施(2017年度6,054名)</li> <li>―2018年3月末に、累計来訪者数17万人を達成</li> <li>―トンボの保全に向けた水辺環境の整備やトンボと人の共生について考える講座を開催(トヨタ白川郷自然学校)</li> <li>―2017年度宿泊者数1万6,718人、2018年3月末に累計来場者数20万9千人達成</li> <li>―未来を担う子ども育成プログラムを強化、2017年度は新たに中学生向けのキャンプを加え、8種類の「こどもキャンプ」に、353人が参加(前年度243人、前年度比145%)</li> <li>《トヨタ三重宮川山林》</li> <li>―地元のNPOと共同で、森林整備が清流やそこに棲む生きものに果たす役割を学ぶ講座を開催(新研究開発施設)</li> <li>―環境学習の取り組みとして、従業員向けに水田の生きもの調査や炭焼き体験を実施</li> </ul>	✓✓	118
	19. バイオ緑化事業、自動車周辺技術、森林保全活動による環境貢献の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●バイオ技術による環境課題への対応</li> <li>―酵母菌のさらなる発酵能力向上によるセルロースエタノールの研究開発推進</li> <li>―畜産バイオマス事業・農業分野への応用による資源・自然資本創出貢献</li> <li>●都市緑化事業やグループ保有技術を通じた、温暖化・気候変動「適応」貢献</li> <li>―ヒートアイランド対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●バイオマス・農業分野の取り組み推進</li> <li>―海外セルロースエタノールパイロットプラントでの実証試験を実施</li> <li>―畜産向け堆肥化促進・消臭資材「レスキュー45」シリーズの普及拡大中*</li> <li>―「豊作計画」(農業IT管理ツール+現場改善)を50社を超える農業法人に提供</li> <li>―長野県など複数の自治体とも協定を締結</li> <li>―品種改良を飛躍的に加速させるトヨタ独自のDNA解析技術「GRAS-Di®」のライセンス契約を締結</li> <li>●緑化分野の取り組み推進</li> <li>―特殊緑化資材「SGP(スマートグリーンパーキング)」、省管理シバ「TM9」の普及推進*</li> <li>*連結子会社の「トヨタルーフガーデン」より販売</li> </ul>	✓✓	119
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●トヨタ三重宮川山林における資源活用モデルの構築</li> <li>●計画中の新研究開発施設において、自然と共存し、地域と調和したサステナブル・テクニカルセンターを具現化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●三重宮川山林</li> <li>―木工品を使った学習プログラムを開発し自社施設(トヨタ博物館、MEGA WEB)などで開催</li> <li>―自社施設での産地木材の活用</li> <li>●新研究開発施設</li> <li>―開発地での着実な環境保全・調査を継続し、環境監視委員会(2回/年)で報告</li> <li>―有識者と三河地域で減少している野鳥保全活動を継続実施</li> <li>―設置した巣箱で、フクロウや地域的に繁殖事例が少ないブッポウソウの繁殖を確認</li> <li>―環境レポート(4回)や学会発表(1回)などで、保全活動で得た知見を公開</li> </ul>	✓✓	
環境マネジメント	20. 連結環境マネジメントの強化推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国内外における各種環境委員会活動の充実による各国、各地域での全事業活動に関わるトップレベルの環境パフォーマンス(CO<sub>2</sub>、水など)確保に向けた活動の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●以下のとおり推進:</li> <li>―国内オールトヨタ生産環境会議・連絡会(役員会議)を定期開催(1回/年)</li> <li>―グローバル環境表彰の開催(海外事業体の改善活動を促進)</li> <li>―2016年11月、第6回グローバル環境会議を開催し、各地域の担当者らと「トヨタ環境チャレンジ2050」などについて議論</li> </ul>	✓✓	123
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●各国、各地域の環境法令遵守と環境リスクの未然防止活動の徹底強化</li> <li>●各国、各地域の法規動向を踏まえた、製品化学物質管理の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●以下のとおり推進:</li> <li>―国内各社の環境取り組み実務担当者を対象に研修会を実施</li> <li>―環境異常7件(TMC1件、国内3件、海外3件)</li> <li>―いずれも軽微な異常・苦情であり、対策・横展はすべて完了</li> </ul>	✓	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●各国、各地域の法規動向を踏まえた、製品化学物質管理の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●化学物質管理体制のグローバル展開</li> <li>―トヨタ標準の遵守</li> <li>―IMDSへの化学物質データ入力徹底</li> <li>―サプライヤーの工程監査・調査による化学物質管理体制の評価・改善</li> </ul>	✓✓	

編集方針・目次・トヨタ自動車の概要	企業理念・サステナビリティの考え方	社会への取り組み	環境への取り組み	ガバナンス	CSRの実績データ集					
トヨタ環境 チャレンジ2050	「2030マイルストーン」 の設定	第6次「トヨタ環境取組プラン」 2017年度レビュー	Challenge1	Challenge2	Challenge3	Challenge4	Challenge5	Challenge6	環境マネジメント	環境データ

取り組み項目	具体的な実施項目・目標など	2017年度の取り組み結果	評価	頁																																													
環境マネジメント																																																	
21. 各国、各地域の都市大気 環境改善に資する 排ガス低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各国、各地域の都市環境改善に資する低排出ガス車を着実に導入</li> <li>●トヨタは、各国の研究機関との「大気環境研究協力」を通じ、大気環境改善に貢献する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各国・各地域において、都市環境改善に資する排気ガス規制の強化が進むなか、これに適合した車両を着実に投入</li> </ul>	✓✓	124																																													
22. 生産活動における VOCの低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>●塗装工程における塗料、シンナーの低減などVOC低減技術の開発と展開 ー 塗装設備改装計画と連動した取り組みと日常改善によるVOC低減を継続的に推進</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>地域</th> <th>項目</th> <th>目標(2020年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">ボデー塗装</td> <td>国内*1</td> <td>塗装面積当たり排出量</td> <td>26g/m<sup>2</sup>以下(全ライン平均)</td> </tr> <tr> <td>TMC</td> <td>塗装面積当たり排出量</td> <td>19g/m<sup>2</sup>以下(全ライン平均)</td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td colspan="2">地域No.1の低減活動推進</td> </tr> <tr> <td>バンパー塗装</td> <td>TMC</td> <td>塗装面積当たり排出量</td> <td>310g/m<sup>2</sup>以下(全ライン平均)</td> </tr> <tr> <td>その他塗装</td> <td>国内・海外</td> <td colspan="2">VOC排出量低減活動推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 TMC+国内連結子会社(製造系)</p>	対象	地域	項目	目標(2020年度)	ボデー塗装	国内*1	塗装面積当たり排出量	26g/m <sup>2</sup> 以下(全ライン平均)	TMC	塗装面積当たり排出量	19g/m <sup>2</sup> 以下(全ライン平均)	海外	地域No.1の低減活動推進		バンパー塗装	TMC	塗装面積当たり排出量	310g/m <sup>2</sup> 以下(全ライン平均)	その他塗装	国内・海外	VOC排出量低減活動推進		<ul style="list-style-type: none"> <li>●洗浄シンナーの使用量低減および回収率向上の取り組み継続 バンパー塗装においては、設備改装に合わせ、水性塗料への切り替え推進</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>地域</th> <th>項目</th> <th>2017年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ボデー塗装</td> <td>国内</td> <td>塗装面積当たり排出量</td> <td>21.5g/m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>TMC</td> <td>塗装面積当たり排出量</td> <td>14.4g/m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td></td> <td>海外</td> <td colspan="2">塗着効率向上活動など推進</td> </tr> <tr> <td>バンパー塗装</td> <td>TMC</td> <td>塗装面積当たり排出量</td> <td>176g/m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>その他塗装</td> <td>国内・海外</td> <td colspan="2">塗装条件最適化など推進</td> </tr> </tbody> </table>	対象	地域	項目	2017年度実績	ボデー塗装	国内	塗装面積当たり排出量	21.5g/m <sup>2</sup>	TMC	塗装面積当たり排出量	14.4g/m <sup>2</sup>		海外	塗着効率向上活動など推進		バンパー塗装	TMC	塗装面積当たり排出量	176g/m <sup>2</sup>	その他塗装	国内・海外	塗装条件最適化など推進		✓✓	125
対象	地域	項目	目標(2020年度)																																														
ボデー塗装	国内*1	塗装面積当たり排出量	26g/m <sup>2</sup> 以下(全ライン平均)																																														
	TMC	塗装面積当たり排出量	19g/m <sup>2</sup> 以下(全ライン平均)																																														
	海外	地域No.1の低減活動推進																																															
バンパー塗装	TMC	塗装面積当たり排出量	310g/m <sup>2</sup> 以下(全ライン平均)																																														
その他塗装	国内・海外	VOC排出量低減活動推進																																															
対象	地域	項目	2017年度実績																																														
ボデー塗装	国内	塗装面積当たり排出量	21.5g/m <sup>2</sup>																																														
	TMC	塗装面積当たり排出量	14.4g/m <sup>2</sup>																																														
	海外	塗着効率向上活動など推進																																															
バンパー塗装	TMC	塗装面積当たり排出量	176g/m <sup>2</sup>																																														
その他塗装	国内・海外	塗装条件最適化など推進																																															
23. ビジネスパートナーと 連携した環境活動の推進 (サプライヤー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●サプライヤーとの連携を一層強化し、グローバルで共に環境を良くする活動を推進 ー 各国法規、規制への確実な対応、化学物質管理の着実な推進 ー CO<sub>2</sub>低減、資源循環、水インパクト低減、自然共生社会の構築など、幅広い環境取り組みを連携して推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●以下のとおり推進: ー「TOYOTAグリーン調達ガイドライン」(2016年1月)に基づく取り組み推進を依頼(15カ国36事業体) ー化学物質管理の徹底に向け、国内のサプライヤーに対して自主点検を依頼し、その結果を基に、今後の取り組みに生かす活動の実施 また同様の活動を、主要な海外拠点に横展 ーCDPサプライチェーンプログラム(気候変動、水)を継続して実施 ー各種勉強会や懇談を通じたサプライヤーとの相互研鑽の実施 ーライフサイクル・サプライチェーン全体での環境取り組みを全社を挙げて推進し、多大な貢献のあったサプライヤーの表彰を開始</li> </ul>	✓✓	126																																													
24. ビジネスパートナーと 連携した環境活動の推進 (販売店、販売代理店)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●販売店および販売代理店と連携した環境マネジメントの推進 (国内) ートヨタ販売店CSRチェックリストの徹底による環境取り組みの推進と、環境管理充実によるCO<sub>2</sub>低減などの推進 (海外) ー各地域統括会社・各国代理店が主導する環境取り組みの推進と強化(CO<sub>2</sub>低減など) ー販売店環境リスク監査(DERAP)推進と強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●以下のとおり推進: (国内) ートヨタ販売店CSRチェックリストについては、内容の最新化による環境取り組みの推進と環境外部認証制度の利用促進により、販売店の環境管理充実によるCO<sub>2</sub>低減などを推進 (海外) ー各地域で販売・サービス分野の環境ガイドラインを作成中 環境取り組みの推進と強化(CO<sub>2</sub>低減など)を図る ーDERAPIについては、世界89カ国92代理店、4,296販売店が参加し、5項目達成の販売店は、参加全体の95%(前年比4%増)</li> </ul>	✓✓	127																																													
25. グローバル社員教育・ 啓発活動の一層の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●グローバルで、従業員への環境教育を通じた環境保全意識の啓発推進 ー連結事業体と連携した環境教育の体系化 ー各国、各地域の実情に合わせた環境教育の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●以下のとおり推進: ー1973年に開始したトヨタ地球環境月間を軸に、グローバルで従業員への環境教育を実施 TMCでは、従業員の環境意識の向上を目指し、年間を通じて、社内デジタルサイネージや卓上ポップを用いた啓発、環境映画の貸し出し、エコ検定の受験料補助などの施策を実施。 社外講師による環境講演会、従業員向け環境セミナー、新入社員向け環境教育も継続して実施 ー各国・各地域で、第6次「環境取組プラン」に即した社内環境教育の計画を立案</li> </ul>	✓✓																																														
26. 環境情報の積極的開示と コミュニケーションの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境の情報開示の一層の充実 ー環境情報の収集対象とする事業体の拡大とその仕組みづくり ー環境報告書のさらなる内容充実</li> <li>●グローバルおよび各国、各地域での環境のコミュニケーション活動の一層の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●以下のとおり推進: ー2016年の生産環境委員会です承された環境情報開示の充実のための3カ年計画を踏まえ、新規の開示情報について、収集、検証の仕組みづくりを継続 ー環境報告書2017において、「環境チャレンジ2050」、第6次「トヨタ環境取組プラン」に沿った進捗状況を効果的に掲載。第21回環境コミュニケーション大賞「環境報告優秀賞」を受賞 ー環境チャレンジ2050に向けて取り組む社員を効果的に訴求する動画の制作・公開を継続 ーTMNAが、北米の環境報告書の公表に合わせ、内容と連動した動画を制作し公表</li> </ul>	✓✓	128																																													